

蒲郡市公共施設 マネジメントニュース



蒲郡市総務部資産マネジメント課
電話：0533-66-1214
FAX：0533-66-1183
Mail：k-mane@city.gamagori.lg.jp

Topic

- ▶ 小中学校などの整備スケジュールが決まりました
- ▶ 塩津・西浦地区複合施設整備進捗状況
- ▶ 特別支援学校の設置場所が決まりました
- ▶ 大塚保育園の建て替えを進めます
- ▶ がまごおり「みらいキャンパス」基本構想を策定しました
- ▶ プール施設の整備に向けて
- ▶ 西浦駅待合所が完成しました

小中学校などの 整備スケジュールが 決まりました



塩津・西浦地区の次は北部・西部地区の整備へ

小中学校・保育園・公民館などの将来の施設配置については、地区の皆さんのご意見を伺いながら検討してまいりましたが、昨年度市内すべての地区で計画が出そろいました。それを受け、このたび現在整備を進めている塩津地区・西浦地区以降の整備スケジュールを決定しました。

施設の安全性や教育・保育環境にも配慮しながら、施設の整備を計画的に進めていきます。

施設の再編内容は、二次元コードまたは蒲郡市公共施設マネジメントニュース第6号（令和5年9月発行）をご参照ください。



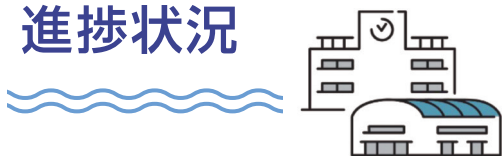
地区個別計画に基づく地区利用型施設の整備予定

（令和6年6月現在）

施 設		整備予定時期	概ね10年以内	10～20年程度	20～30年程度	概ね30年以上
大塚地区	大塚小・大塚中・大塚公			→		
	大塚保・大塚西保	→				
	おおつか児		長寿命維持			
三谷地区	三谷小・三東小・三谷公			→		
	三谷中				→	
	三谷東保・三谷西保	→				
	みや児		長寿命維持			
蒲郡南地区	蒲東小・東部公・東部保	→			→	
	竹島小・府相公・府相保					→
	蒲南小			→		
	蒲郡中			→		
	小江公	→	老朽化状況等を踏まえ、適切な時期に統合			
	蒲郡公		長寿命維持			
	南部保・がまごおり児		長寿命維持			
蒲郡北地区	中央小・中部保				→	
	蒲北小・北部公・北部保・蒲西小・西部公・西部保	→				
	中部中	→				
	ちゅうぶ児		長寿命維持			
塩津地区	塩津小・塩津公・塩津保	→				
	塩津中	→				
	しおつ児		長寿命維持			
形原地区	形北小・形原北保	→				→
	形原小・形原保・形原南保			→		
	形原中				→	
	形原公		長寿命維持			
	かたはら児		長寿命維持			
西浦地区	西浦小・西浦中・西浦公	→				
	西浦保・にしうら児					→

・矢印は概ねの整備予定時期を示すものです。
・各小中学校には児童クラブ機能、公民館と集合しない小学校には学校と地域とが連携できる拠点の機能を設けます。
・今後の社会状況、経済・財政状況、ニーズの変化に対応するため、見直しを行い内容を変更する場合があります。

塩津・西浦地区 複合施設整備 進捗状況



地域がつながる複合施設へ

令和4年度から地区の皆さんと設計ワークショップを行ってきた、塩津・西浦地区の複合施設の実施設設計が完成しました。今年度から、両地区の複合施設完成に向けて、工事に着工していきます。

※当初の予定よりも着工が遅れているため、今後スケジュールに変更が出てくる可能性があります。

塩津地区全体イメージ



南側（図の左部分）に保育園、北側（図の右部分）に小学校と公民館と児童クラブを配置。保育園と小学校と公民館がつながって、交流の活性化が期待されます。

クスノキ広場

塩津小学校のシンボルツリー「クスノキ」の周りに広場を設置。地域との交流や屋外イベントなど多様な活動が可能に！



交流スペース

地域開放しやすいように、クスノキ広場に隣接した場所に配置し、世代間の交流を促します。

西浦地区全体イメージ



交流広場

校舎棟と公民館棟の間を交流の場とします。子どもたちと地域住民が、各種交流やイベントに利用できます。



南側（図の左部分）の校舎棟に義務教育学校*、北側（図の右部分）の公民館棟に体育館と図書室と公民館と児童クラブを配置。教室の近くのオープンスペースにも書架を設置します。

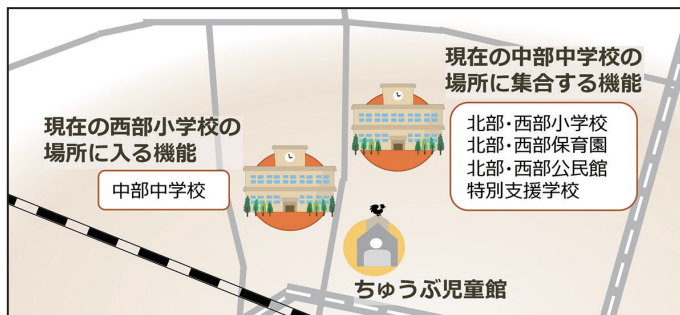
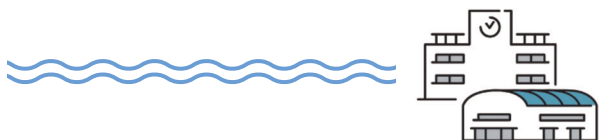
木造空間の教室

木の香りや手触りを含めて、子どもたちの成長と発達を促し、ストレスの低減を図ります。



*義務教育学校…平成28年の学校教育法の改正により新設された小学校から中学校までの教育を一貫して行う校種のこと。大きな特徴として、小学校6年、中学校3年という枠組みではなく、9年間を通じた柔軟なカリキュラムで学ぶことができる。

特別支援学校の 設置場所が決まりました



▲ 蒲郡北地区(中部中学校区)個別計画から加筆

インクルーシブ教育の実現へ

市では、これまで特別支援学校の設置を検討していました。令和5年8月に策定した「蒲郡市立特別支援学校のあり方(基本方針)」では、市立の特別支援学校を小学校の建て替えに合わせて小学校へ併設し、障がいのある子と障がいのない子が日常的に交わりながら学ぶ「インクルーシブ教育」を実践していくとしていました。その後検討を重ねる中で、設置場所は蒲郡北部・西部小学校(仮称・現在の中部中学校敷地)に決定しました。

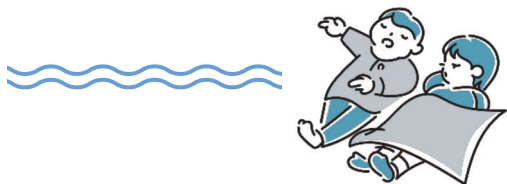
概ね10年をめに現中部中学校の敷地に北部・西部地区の小学校、保育園、公民館、児童クラブの機能を集約する計画となっているので、このタイミングで市立の特別支援学校を併設する予定です。

特別支援学校とは

障がいのある子どもを対象として、専門性を生かした特別支援教育を実施する学校。

ここでは、障がいによる学習上または生活上の困難を克服し、自立を図るために必要な知識・技能を習得できるよう学習を進めます。

大塚保育園の 建て替えを進めます



大塚地区初の低年齢児保育など導入へ

大塚地区には大塚保育園・大塚西保育園の2園ありますが、これまで施設の設備などの理由により、低年齢児(2歳未満児)保育など、多様化するニーズに対応できずにいました。しかし、社会状況の変化から保育のニーズは年々増大していたことに併せて、施設の老朽化が進んでいることを受け、2つの保育園の集約・建て替えに合わせ、低年齢児保育などの保育ニーズに対応することとしました。

子育て世代と近い若手建築家が描く保育園に

これから作る新大塚保育園は、今後の大塚地区の子育て支援の核となっていく場所です。地域の特性やニーズ、期待を取り込んだ柔軟な発想による施設設計を行うため、設計プロポーザルの参加要件に年齢要件を設けました。子育て世代に近い年代の方が設計することによって、子どもたちの未来へとつながる保育園を創造し、地域住民に愛される施設となることを期待します。

設計者が決定した後は、地区の皆さんや保育園運営者などの声を反映しながら検討を進めていきます。



新保育園概要

場所 現大塚保育園敷地(4,583㎡)

定員 110人

拡充するサービス

- ・0歳児からの保育の実施
- ・保育時間の延長
- ・一時預かり保育の拡大



地元・保護者説明会 での意見

- ・保護者の送迎者用の駐車場を確保してほしい
- ・雨の日に渡り廊下が濡れない作りにしてほしい
- ・「自然」をテーマに子供たちが行きたくなるような保育園を目指してほしい
- ・見通しの良いレイアウトになると良い
- ・学年に捉われずみんなで遊べるような広い園庭や遊具があると良い



今後のスケジュール(予定)

令和6・7年度：設計
令和8年度：建設工事
令和9年度：供用開始

がまごおり「みらいキャンバス」基本構想を策定しました

～図書館・ホール・生涯学習センターの機能を集合～

全市利用型施設リーディングプロジェクトでは、蒲郡駅周辺エリアにおいて、令和13年度までに、市民会館が持つホール機能、図書館機能及び中央公民館を含む生涯学習センター機能の3つを核とした、「市民の居場所」「活動拠点となる場」を形成するものです。

本プロジェクトにおける基本的な考え方（基本理念・施設コンセプト）や施設の方向性（施設計画の概要）を示すために『がまごおり「みらいキャンバス」基本構想』を策定しました。



基本理念(目的):『共創』

本施設では、市民が気軽に集い、ふれあい、にぎわうことを、市民一人ひとりが自ら生み出し、共に創ること＝「共創」を基本理念とし、心豊かな暮らし～ウェルビーイング～につなげていくことを目指します。

施設コンセプト がまごおり「みらいキャンバス」

「いま」を快適に、または、刺激的に過ごせて、さらに市民一人ひとりがここで夢を持って「みらい」を描ける施設となるために、市民が「いま」と「みらい」の自分を自ら描く場となるこの施設を「キャンバス」に見立て、「がまごおり「みらいキャンバス」」という施設コンセプトを掲げました。

がまごおり「みらいキャンバス」は、「憩い・つながる場」「知の拠点」「発信・表現の舞台」の3つの役割を設定し、融合・循環することで、「共創空間」の構築を目指します

市民が

憩い・つながる

学び・体験する

発信・表現する

『共創空間』

自由な居場所であるとともに、蒲郡の多様なヒト・モノ・コトが出会い、つながる

憩い・つながる場
＜みらいスペース＞

新たな知識・情報・経験に触れ、「知りたい」学び「やってみたい」活動を深め、高めていく

知の拠点
＜みらいスタジオ＞

学び、活動したことを発信や表現によって人に伝えて、学びが循環し、一人ひとりがかがやく

発信・表現の舞台
＜みらいステージ＞

基本構想の内容はこちら▶

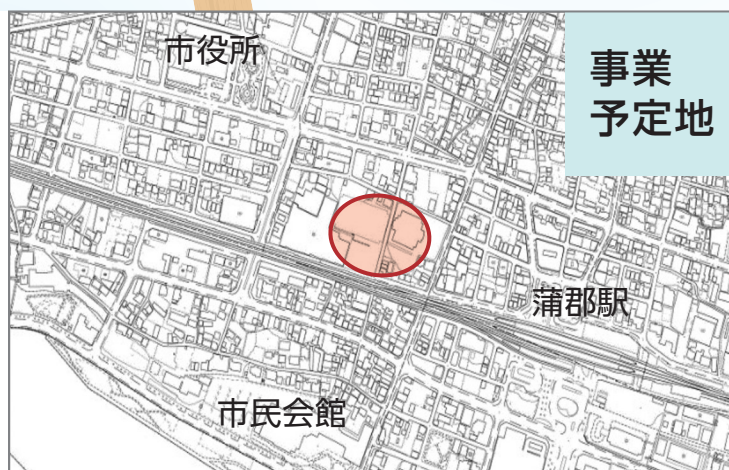


今後のスケジュール(イメージ)

令和6年度～：基本計画等の検討・策定
事業用地の整理

令和8年度～：設計業務

令和10年度～：建設工事、運営準備等



がまごおり「みらいキャンパス」の 目指す方向性と概要

施設全体

誰もが心地よく憩える“サードプレイス”(自宅、
学校・職場以外の居心地の良い第3の場所)

- ・ 若者世代も訪れたいくなる **デザイン性のある魅力的な施設**
- ・ 親子の居場所となる機能の導入を検討 (**託児・遊び場**など)
- ・ 市民が集い、憩い、くつろぐ場にするため、**カフェ**や**物販**機能の導入を検討
- ・ 情報発信拠点として、**デジタル技術**の導入を促進



丸亀市市民交流活動センターマルタス

ホール機能

文化芸術に触れ、“多様な学び・価値観に出会う場”
音楽や学びの活動を市民自ら“表現・発信する舞台”

- ・ 未来を担う子どもたちが質の良い文化芸術に触れる機会を創出し、誰もが気軽に利用できる、**開かれたホール**の構築
- ・ 図書館や生涯学習センター等の**他機能と連携**し、公演、講演会、講習会等の提供による多様な学びの実現
- ・ 「**音楽のまち蒲郡**」として、文化芸術活動の振興を支援し、自ら舞台に立ち、表現する市民を増やす取組を実施

図書館機能

インプットされた学びを、活動を通じ発信し、
アウトプットする学びもできる“みらいにつな
げる知の拠点”

- ・ **蔵書数の拡充**を見据えつつ、新しい資料に触れられる**鮮度が高い**開架図書、**ゆとりある**開架スペース
- ・ 一人で集中したり、グループで学習する等、**思い思いの使い方**を実現する学びの空間の提供
- ・ AI、ICT導入などの**図書館DXの推進**
- ・ **活動に沿ったテーマ配架**など、**創造的な学び**の場づくり



須賀川市民交流センター tette

生涯学習センター機能

多様な生涯学習活動の情報のハブ機能を備えた、
市民同士の輪・繋がりを広める“学び・文化活動を
支える場”

- ・ 多様な学び・活動を支援するため、**諸室(創作活動室・調理室など)**の設置検討
- ・ 博物館のギャラリー機能を移設し、学びや文化芸術活動の成果を発信できる「**ギャラリースペース**」を整備
- ・ 市民の多様な生涯学習に関する学び・活動の具体化に向けた**支援・相談窓口**の設置



二子玉川ライズ スタジオ & ホール

プール施設の 整備に向けて

学校プール施設と水泳授業

令和5年4月に策定した「蒲郡市学校プールのあり方」では、老朽化が進む小中学校のプール施設はすべて廃止し、既存の民間プール施設と新たに整備する屋内プール施設(新規プール拠点)で、教員と専門の水泳指導員による水泳授業を実施することとしています。

新規プール拠点は、市域の西エリアと東エリアの2拠点で中長期的に整備していく予定です。

市民が利用できる屋内プール施設

西エリアと東エリアの2拠点で整備する新規プール拠点のうち、いずれかの1拠点は一般市民と水泳授業の両方の利用に配慮した「市民プール」として整備する予定です。

市民プールは、すべての市民がスポーツ・健康づくり活動ができるプール施設とするため、学校水泳授業で必要となる25mプールや水深の浅い子ども用プールを基本に、水中歩行など健康増進に関する機能を付加した施設とすることを考えています。



西浦の玄関口

西浦駅待合所が完成しました

令和5年6月に学生チャレンジコンペによって設計案が決まった西浦駅待合所が、令和6年3月ついに完成しました。オープニングセレモニーの日はあいにくの雨ではありますが、地元西浦町の方を中心にたくさんの人がかけつけ、皆さんと一緒にオープンをお祝いすることができました。

待合所は、「風透る屋根の下で」のテーマを体現したように、冬の寒い時には柔らかく入る木漏れ日が暖かさを与え、夏の暑い日には心地よい風を届けてくれます。また夜ライトアップすると、辺りは昼とは違った姿に。少し暗い一帯の中で暖色の明かりが灯った待合所自体が、灯籠のように周りを照らします。住民の皆さんの憩いの場と観光で訪れる人たちの玄関口として、長く愛される場所になりますように。



▲完成した西浦駅待合所



▲設計者の皆さんと新たな門出を迎えました



▲夜のライトアップはとても良い雰囲気

地元の声 赤い電車応援団 朝比奈航希さん(西浦町在住)

僕は通学で毎日西浦駅を通っています。

待合所を通りがかったときに観光客の人が電車を待っていたり、地元のおじいちゃんおばあちゃんたちが談笑している様子を見て僕自身も心が和みます。設計してくれた皆さんが、まちの皆が使いやすいようにと考えてくれた役割を担う場所になっているなと感じています。

夜は優しい色の明かりが灯ります。電車で帰ってくる時にこの待合所を見ると、癒されるとともに、これが僕の最寄り駅なんだと西浦駅を利用していることを自慢に思います。

